

**みやぎNPO夢ファンド（2）ステップアップ支援プログラム**  
**平成21年度助成事業 最終報告書**

2010年4月26日

団体名	(特活) みやぎ発達障害サポートネット
事業名	発達障害児・者未来塾（発達障害児・者の生涯にわたった「あったらいいね」を実現させるための支援プログラム構築事業）
助成金を使って行った事業について、具体的にご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)	<p>発達障害児・者メンター養成事業3期：別添資料1</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■対象者：全5回発達障害児・者の保護者・支援者等延べ296名</li><li>■日 程：平成21年9月26日・27日, 10月25日, 11月22日, 12月12日 1回の研修日数は5日間。9:30~16:30 (9月26日のみ10:30~17:30) の6時間×5回の総時間30時間。</li><li>■場 所：1・2・5回：宮城県建設産業会館 会議室 4・3回：ハーネル仙台 会議室</li><li>■内 容：発達障害の特性理解・福祉制度・カウンセリング技術の習得</li></ul> <p>プリスクール事業 第3期：別添資料2</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■対象者：未就学発達障害児と保護者 18組</li><li>■日 程：平成22年4月から週1回午前中</li><li>■場 所：仙台市青葉区花京院1-4-1 「ぬくもりすぺいす 虹っ子」</li><li>■内 容：子どもには30分/1セッション・保護者には20分/回の療育とそれに伴う相談支援を行う</li></ul> <p>企業啓発&amp;ジョブトレーナー養成事業</p> <p>当初企画は以下であった</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■対象者：仙台市内企業10社&amp;5名</li><li>■日 程：平成21年4月から年6回</li><li>■場 所：仙台市内</li><li>■内 容：経営者・人事担当者を中心とした啓発と特性対応可能なトレーナー養成が、昨今の経済状況から企業に働きかけても受け入れ先の確保が難しかった。一方、これまでの活動の成果から、宮城県での「一般校を活用した職業能力開発事業」に、機関として、またディレクターとして関わることになったため、H22年度からトレーナー養成に本格的に関与。</li></ul> <p>年度内での養成研修は当事業所としては実現しなかったが国のモデル事業として発展。</p>

成果目標はどの程度達成できましたか。当初目標と比較して記入してください	
<p><b>●申請書に記載した成果目標</b></p> <p>メンターの拡充により、診断・判定直後の保護者が「いつでも・どこでも」困った時・苦しい時に支えられる体制が整備される。</p> <p>就学前の療育機関としての信頼を獲得し、行政の「子育て支援事業」と協働する。</p> <p>青年期の発達障害の本人が働く場所が保証され、経済的自立が実現する本人を輩出する。 発達障害者の雇用未経験の企業が、不安なく雇用・戦力的活用を図ることに貢献する。</p>	<p><b>●目標の達成度・団体に与えた効果</b></p> <p>今年度の初級認定者は11名に留まったが、この事業を通して3年間で80名弱の「発達障害者メンター」が輩出された。 「身近な応援団」として、地域での理解拡大のキーとなり、活躍が期待できる。</p> <p>「発達障害児」の未就学児に対する療育機関としての信頼を得られるようになってきている。一方、行政との協働は予測通りに進まず、十分に目的は果たせなかった。</p> <p>3年間の助成期間に、「発達障害の本人」として福祉就労を選択し、社会的な自立を遂げようとする成年を2名輩出。 企業への理解・啓発は引き続き、当法人と宮城県とのチーム連携の元努力していく。</p>
<p><b>●事業を通じて、新たに見えてきた課題はありますか。もしあれば、その解決に向けて必要なことをお書きください。</b></p> <p>「発達障害の本人と家族に『未来を創る』」ための足掛かりとして、3年間未就学～成人期への支援と発展させるとともに、家族への「理解」啓発とメンタルケアも目標として本事業を行ってきた。</p> <p>本事業の告知/広報等を通して、当法人のこの地域での役割がかなり周知され、保護者には「頼れる存在」として認知していただけるようにはなってきた手ごたえは得られるようになってきた。</p> <p>一方、企業啓発や就労支援は、一団円で実行できることの限界も感じるようになってきた。今後は、幼少期からの将来を見据えた療育過程を通じた長期的な実践を積み重ねて行きつつ、行政や企業を巻き込んだ「出口」のシステム創りが必要かと思われる。</p>	

3年目の収支報告（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	1,000,000	1,000,000	
メンター養成講座受講料	1,000,000	1,082,600	延べ296名参加
プリスクール事業参加費	288,000	293,000	
ジョブトレーナー養成講座受講費	50,000	0	
合計	2,338,000	2,375,600	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
メンター養成講座会場費	436,800	428,958	ハルニル仙台 宮城県建設会館
同 担当者人件費	450,000	510,000	講師謝金含む
同 事務消耗品	400,000	325,600	
プリスクール会場費	312,000	312,000	家賃120,000/30日 *4週*12月+光熱費
同 教材費	259,200	205,702	
同 運営サポーター人件費	480,000	593,340	交通費含む
合計	2,338,000	2,375,600	

3年間の事業を振り返って（ご自由にお書きください）

発足間もない団体であった当法人がここまで育ってこられたのは「夢ファンド」のご支援によるものでした。

3年の助成を終了する今、本当に感謝しています。

「発達障害のご本人とご家族の『あったらいいね』」を叶えることを一番の目標/目的として『未来塾』を構想し運営してきました。

掲げた目標のうち「地域で味方となって応援してくれる人を増やす」や、「障害特性が解って迷い悩んでいるお母さんたちの支えになる」、「具体的に『困っている』ことへの対応を療育を通して確認していただく」ことは、充分成果が上げられたと自負しています。

一方「行政との協働での仕組み創り」・「いじめや障害のない教育環境への貢献」・「企業啓発による就労環境の整備」は、一団体に挑むにはあまりにも大きな課題があり、「社会変革」を目指すためには、一層の知恵と工夫が必要であることも確認出来ました。

また、ファンド運営委員の皆様との有形・無形の「ご縁」が出来たこと。そして、常に報告会で評価し、認め、励ましていただいたことは、何よりの「支え」でした。深く感謝しています。

今後はこのいただいたご恩に報いるためにも、より信頼される団体として成長できるよう、学び続けながら歩んでいきたいと思っています。

これからも見守り励ましていただければ幸いです。3年間有難うございました。

#### 寄附をいただいた方へのメッセージをどうぞ

たくさんの「幸せ」をいただきました。

深く感謝しています。有難うございました。

これからも発達障害児・者に「未来が見える」（大切なことは、本人たちが「一人で出来るようになることではなく、自分の苦手なことを知っていて、そのことをうまく処理するために、何をどう使えば良いか・誰に（どこに）聞けば良いかを知っていて、そのことが出来る」支援が、当たり前を実現する）社会が実現することを、地域の社会資源と協働して目指します。

## 資料 1

キーワードは「関係性」 [2009年09月26日(土)]

「発達障害者メンター養成講座2009」が始まりました。  
スタートは恒例の札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」副所長加藤潔先生から。



今年もたくさんの「大切なこと」を教えていただきました。

- ・障害は関係性の中の存在するもの
- ・障害は治すものではなく上手く付き合っていくもの
- ・障害は不自由かもしれないけれど不幸ではない
- ・障害は優劣の問題ではなく「違い」があるだけのこと
- ・障害は少数派であることから生まれる誤解。

だから

フツウにしようとすることは彼らの尊厳を損なうこと

全部全部「当たり前」なこと。

そして

- ・「今」が幸せでなければ将来は幸せになれない
- と、「確かな支援」の本質を説いて下さいました。

明日もまた素敵な出会いと素敵な学びが出来る幸せを感謝しています。

「メンター養成講座」加藤先生の二日目。  
今年もまたお母さんたちのとってもきれいな「涙」でエンディング。  
(今年も加藤先生も初めて私たちの前で涙…)  
“自閉症でいい”→“自閉症がいい”→“生まれかわっても自閉症”  
こんな進化モデルを実現させたいですね。  
セミナーの詳細は後ほど改めてアップされます。

「発達障害の本人と家族に未来を創る」  
ずっと願い続けている夢です。  
夢の実現の後押しになる出来事も…  
セミナーの始まる前、政権与党の一員となられた議員さんから携帯にTEL。  
「二時に会えない？」  
発達障害者支援で「今」何を求めているか。またどんな応援をしたら良いのかを聞かせて欲しいと言っていました。  
二時はセミナーの真っ最中。  
事情をお伝えすると、セミナー終了後の時間を提示してくださいました。  
急なことでしたので加藤先生のお見送りも失礼し、後片付けをスタッフにお願いして1時間程時間を創っていただきました。

「自立支援法」下で給付事業を行っている立場としては、せっかく上がった給付はどうなるのか？それより「児童デイサービス事業」自体どうになってしまうか“事業所はとっても不安になっている”ことをお伝えしました。  
また、“この宮城の地で、今日のセミナーのようなお母さんたちが「自閉症でいい」と心から思えるような丁寧な支援をシステム化出来たら良いな”  
そのためには、“TEACCHの理念の下での「育ちの支援」が叶う実践ステージを、仙台市内でなくても良いので設置できたら幸せ”  
“集中的に専門家の養・育成が出来るプログラムを作れたら良いな”  
“給付が上がったことで事業所は経済的にはとても救われた。次は必要なだけの受給を実現出来たらもっと子どもたちの「育ちの支援」が叶う。そのことはお母さんたちや家族の幸せにも繋がるはず”  
などなど、熱く(?)語ってしまいました。

今すぐは難しいことも多いのは当然。  
でも「発達障害者支援法」を作り上げたのも親たちの諦めない気持ち。  
4年前の参議院内閣委員会での採択の瞬間の感動と感激。それを忘れる事が出来ません。  
“願って叶わないことはないんだ”  
“今日お母さんたちの流した涙の先に、きっと「未来」が創られる”  
そう信じてみたいと思っています。

『自閉症の人の自立をめざして』をテーマに、梅永先生がたくさんのことを教えてくださいました。  
・アセスメントとは、マイナス面を並べるのではなく、支援の方法を具体的に知ること。「何ができ」「どんなサポートが必要か」。  
・本人の興味や長所を組み入れること。  
出来ないことを数えるより、出来ることに視点を向けることは、私たち親も日常から積み重ねていきたいことです。  
スペクトラムだったであろうとされる歴史上の人物は、のびのびと育つ環境にあったこと。そうでなければ、素晴らしい才能が発揮されなかったかもしれません。

ノースカロライナでのお話しの他、日本での成人期の方の事例もたくさんご紹介くださいました。  
つらい過去の数々。

素敵な出会い。

それぞれのエピソードがあり、どんなサポートがあればよかったのかは、成人期の方々と一緒に本にまとめておられます。

『こんなサポートがあれば！1・2／梅永雄二 編著／エンパワメント研究所』

ご自身の体験を語ってくださる成人期の方々の、これまでの退職理由として

・ジョブマッチングの問題(その人に合っていなかった)

・企業(雇用主)に理解してもらえなかった

という大きく2つの理由が挙げられました。

「ジョブコーチというより、ジョブコーディネーターの役割が大切」とおっしゃる梅永先生は、これまで600社ほど企業を回っていらっしゃるそうです。オドロキでした。

なんと実際に先生自身がその数々の「仕事」を体験されて、支援につなげていらっしゃる、実践されている先生のお言葉には重みと説得力がいっぱいでした。

企業の方にスペクトラムの良さを知っていただくと強い味方になる！構造化された職場環境は他の職員にもわかりやすいこと。

正確でミスのない作業は、企業にとって手放したくない存在になる！

それには相手(雇用主)にわかりやすく説明すること。

今何が必要かに立ち戻り、これからどんな活動や連携が必要なのかを力強く語ってくださった梅永先生にエネルギーをいただいた一日でした。

帰宅してから、「夜ごはんなあに？」と子どもたちに聞かれ、「シチューで～す」と答えると、自主的に手伝ってくれました。料理関係の手順書はまだ「米とぎ」しかないウチですが、「シチュー作り」の「野菜を切る」なんて出来てるあたりも、書いてみようかなと思った私でした。妄想は膨らみ、「手順書を作っておけば、私が帰る前にシチューはできあがっていたかも・・・」と悔しくなったり(?)、「私の手抜きメニューの写真も、そろそろ作り方を書き足そうっ」などと自分の世界に浸っていました(^\_^)；

想像の世界でなく、小さなことも実行しなければですね。

梅永先生ありがとうございました。

「メンター養成講座」の3回目です。  
宇都宮大学の梅永雄二先生にお越しいただきました。



午前中は知的障害を伴う自閉症の方の支援をテーマに。  
午後からは高機能アスペルガーの方への就労に向けた支援を、幼少期からの生活にも視点を置いて、丁寧にご指導いただきました。  
自閉症・発達障害の基本理解も随所で触れていただきました。  
疑似体験のようなハプニングもあり、



私たちの子どもの生活上の困難さを改めて感じ取る場面も提供していただきました。

今日はノースキャロライナでの実践もたくさん紹介していただきました。  
TEACCHが「正しく」理解され、この地で定着していくための宿題もたくさんいただきました。  
サポートネットで出来ることをスタッフと共有しながら『地域の中で必要な支援を受けつつ、自立した豊かな生活を送る』成人が増えていくことを願い続けたいと思っています。

長い時間お付き合いくださいました梅永先生と参加者の皆様に御礼を申し上げます。

目的と手段を取り違えない [2009年11月22日(日)]

「メンター養成講座2009」の4回目は、京都児童福祉センターから門眞一郎先生にお越しいただき「視覚的支援の意義と実際」を、丸一日たっぷりと学ばせていただきました。本当に山盛りの実践例と、その裏打ちとなる原理・理念を丁寧に伝えていただきましたことに深く感謝しています。

心に届き、振り返りのきっかけになったことに  
『「構造化の目的と手段」を整理してくださった中で指摘して下さった  
「目的：構造を理解してもらう（構造とは、場面の〈意味〉と〈見通し〉）」  
と

「手段：構造を明確化するために使う手立てが〈視覚支援〉」  
を取り違えてはならない！』  
ということがあります。

当たり前のことだけど、緊張感を失った時に見逃しがちなことでもあると感じました。  
“ハッ”とする一言一言に“今なぜこの（学びの）場にいるのか…”ということに改めて深く考えました。

門先生がサラッとおっしゃった言葉を受け流すことなく、「大切」にしていくべきことを確認し続けたいと思っています。

そのためには、昨日も今日も  
「学び続けること」を先生方から求められたと思います。

また、この「目的と手段を取り違えない」といふことは、法人として事業を運営して行くためにも立ち返らなければならない視点だと思っています。

「あったらいいな」と願う日々の暮らしを支えられるように、支援の質と力を高めていくことしかありません。

つまずいたり、ざわついた時、立ち戻るのは「ミッション」しかないのです。

人の縁にも恵まれて叶っている「学ぶ」チャンスと、これからも大切にしていきたいと思っています。  
長い一日を共に過ごしていただいた門先生と、ご参加の皆様に改めて感謝申し上げます。

今年度の「メンター養成講座」の最終回。  
毎日新聞論説委員の野沢和弘さんにお越しいただきました。



野沢さんは、障害者の権利擁護と取り組む報道人であるとともに、23歳の自閉症のお子さんをお持ちのお父様でもあります。  
たくさんのお話を提供していただきました。  
深く私たちのこどもの行く末を考えるきっかけとなる一日でした。  
詳細は後ほど🍎さんが丁寧に伝えてくださいます。

「一人の本人の周囲には、たくさんの人(きわめて近い応援団)がいる。障害を気にかけている層は実は分厚いのだ」というお話をしてくださいました。  
この3年間5回ずつの連続で展開してきた「発達障害者メンター養成講座」は、今日「初級」の認定を11名の方に出させていただき、述べ80名を超える「良き師匠・理解者」として地域生活の「味方」を排出することができました。  
地域の中の、身内以外の「きわめて近い応援団」が本格的に動き出せるのは、今日がスタートでもあるように思っています。

3年間お世話になりました講師の先生方との出会いも、たくさん感動と勇気を与えてくださいました。  
この3年間の講座運営のために力を貸してくださった「みやぎ夢ファンド」に心から感謝するとともに、この80余名の方々との今後に夢を馳せています

## 別紙 2

自慢のスタッフ [2009年06月10日(水)]

「めばえ」の指導スタッフの大半は、“ちょっと先行き先輩ママ”たちです。無謀といわれた時もあるかもしれないけれど、そのスタイルや目線を大切に「療育支援」をしていくことはこれからも変わりはないでしょう。月に1度のSV指導や、折に触れてのミーティング・指導情報の交換を通して、すっごく頼りになる存在になっています。

「学びの種」も各自の子育ての中で得た知恵や専門書、受講するセミナー等いろいろですが、今日の智子さんの教材は全て手作り・手描き↓



アイデアの源は



担当のお子さんの発達段階に合わせて、なぞり書きや体の部位に対する認知レベルの確認等、どれも素敵な教材です。

「待っていても何も変わらないから」  
「望む療育システムが足りないなら自分たちで始めてみようよ」  
そんな願いを受止めて、ご自身の子育ての合間をぬって、「学び・育ち合う」母達がいるからこそサポートネットは毎日動いているのです。  
サポートネットの「自慢のだから」です。

好きなことを十分に [2010年03月02日(火)]

過日の放課後ケアのついでで、『虹っ子』の概略とポスターには「好きなことを十分に」という大塚先生の言葉が入っていました。

「めばえ」のT君は、春に小学生になります。

「虹っ子」でお友達と一緒にいるときは、遊びの時間が楽しみでワクワク。(課題中もそのこと考えてなあい…??(-\_-))

「めばえ」は特に大人数でもないのに、子ども＋スタッフ位で程よいこともあるのか、独特な虹っ子ワールドが広がって盛り上がります。

今日T君は一人だったのですが、こういう時も、ブロックをいろいろ組み立てて自分の世界を作ってみたり、ミニカー用のおもちゃを広げてみたり。

大人が介入しなくても実にマツタリと過ごしています。

K君は、最近お気に入りのブロックを使ってステキな作品を並べ、ご満悦↓



K君がとっても詳しいお祭りの…(やっぱヒミツにしまーす)。

並べると畳にほっぺを擦りつけんばかりに作品に顔を近づけ、眺めています。ミニカーや電車の好きなお友達によくある体勢(^o^)

春になって小学生になるお友達も、園デビューのお友達も、ずっと大切にしたいことの一つは、生活の中で自分の好きなことを誰にも邪魔されずに楽しむ時間。

『虹っ子』でももちろん。

特に帰宅してから、それは保障されることでしょう。

きっと大人になっても…。

そんな話をお母さん方としながら、タイトルの言葉を思い出した日でした。